

学校法人 村上学園

二〇二二年 令和四年 三月十五日 発行
発行元(発行責任者)
学校法人村上学園 法人事務局
参事(広報担当) 寺川 誠
東大阪市西堤学園町三二一
電話 〇六六七八一二四四四
URL <https://www.murakamiyakuen.jp/>

ご卒業

おめでとうございます

二月十八日(金)に東大阪大学敬愛高等学校で、二月二十一日(月)には東大阪大学柏原高等学校でそれぞれ卒業式が行われました。



公開講座 開催(1/8)

東大阪大学・同短期大学部



二〇二二年一月八日(土)、一般の方を対象に、東大阪大学公開講座を対面とオンライン配信によるハイブリッドで行いました。介護福祉学科の五名の教員(石鍋・梓川・傘・玉井・野口)による「認知症サポーター養成講座」と国際教養こども学科の横田先生による「さまよえるモチーフ」伝説からファンタジー「ハル」の二講座でした。

「さまよえるモチーフ」伝説からファンタジー「ハル」の二講座でした。認知症サポーター養成講座「コミュニケーション技術を学びませんか」個人ワークとグループワークを行うことを通して、認知症の人のコミュニケーション技術について、学んでいただきました。

一月二十二日(土)開講予定でありました三講座につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来場者および関係者の方々の健康や安全面などを第一に考え、残念ながら中止とさせていただきます。



シンボルの鹿(R4.3.2撮影)
★紙面案内
1面: 卒業おめでとうございます
公開講座開催 他
2面: 延ちゃん道中記(その④)
3面: 延ちゃん道中記(その⑤)
4面: 節分(豆まき)遠足
編集後記(日々雑感)



卒業生が過ごした三年間、特に一年の終わり頃から、新型コロナウイルス感染症が国内に拡大し始め緊急事態宣言の発出

卒業、おめでとう!

両高校ともコロナ禍での卒業式で式次第の簡素化を図り時間短縮に努め、感染防止対策を施した上での挙行となりました。しかし、卒業生の皆さんは清々しい表情で式に臨んでいたと思います。

二〇二二年一月五日(土)、東大阪大学併論大会「第五回東大阪大学併論大会」が、東大阪大学八号館大講義室にて開催されました。



今回のテーマを「今、思うこと Now, What I Think」として募集したところ、外国語の部に五名、日本語の部に六名、合計十一名の参加がありました。また、今回は従来の対面だけでなく、Zoomを使ってインド、中

第五回東大阪大学併論大会開催(1/15)

テーマ「今、思うこと Now, What I Think」

外国語の部では、本学国際交流センター職員(大阪女学院大学卒業)のグエンティ・ビック・ハーさんが優勝、本学こども学部こども学科二年生の尹俊さんが準優勝、大手前大学現代社会学部大学生の中西健志さんが第三位という結果になりました。また、日本語の部では、蘇州大学外国語学部日本語学科三年生の樊子琳さんが優勝、同じく黄羽琪さんが準優勝、本学卒業生のグエン・キムタクさんが第三位、ニューテリール経営大学Tエンジニア専攻のレイ・シンクさんが努力賞という結果でした。

世界的に社会情勢が大きく変わりつつある現在、参加者の皆様がコロナ禍で体験したことや、これまでの経験、今、思うことを、本大会を通して聴かせて頂くことができ、大変貴重な機会となりました。また休憩時間には、本学学生によるピアノ演奏とバンド演奏もあり、素晴らしい時間を過ごすことができました。今回の大会が大変な楽しみになりました。演奏でし

先生に不信感を持たせるのも、逆に生徒が先生に信頼を寄せるのも、授業において他にないのであります。いくら生徒に「それこそいい」と言っても、生徒は先生の本音のハートを見抜いているのです。反社会的行動(やんちゃ)をとる生徒程、感覚的に鋭く先生を観ているものです。ですから、先生は何においても自分の授業を責任をもって成立させていく「と迫力」と「指導技術」が最も求められます。

入学してきた生徒は、はなからどの先生の授業も放棄しようなどと考えていません。はじめは、気迫のない指導技術の未熟な先生の学習秩序から乱れ、それが全体に「蔓延」していきます。ですから、高い指導技術を持った先生が学習秩序の維持できない先生を批判しているだけでは、いずれ自分もその生徒のために、授業成立の困難をきたすようになるのであります。こんなことから、学習秩序の乱れに困っている先生を、先生全体で支えていく体制づくりが極めて重要なことでもあります。それは、先生全体で開く研修や意思統一も大切に違いありませぬが、どうしても形式的になったり画一的になったり、現実的に授業を成立させることに困っている先生の課題意識との「すれ」を生じさせてしまうことが多いように思います。

「あんしん」のたわごと⑭

～ 生きる力となる授業を ～

1. 授業の始め、終わりの号令、挨拶の持つ意味を生徒に熟知させる。(学習の基本)
2. 生徒に、今何をなすべきか(先生の話を聞く、生徒同士の話し合い、ノートをとる、実験をする……等)を、その明確にして、このことに集中させ、そのことから逃げようとする生徒に繰り返し繰り返し繰り返すこと。
3. 授業に身が入らず、授業から離れたら、注意すること、授業全体がそれらの生徒に絶対引きずられてはならない。

そこで、私の少し経験したことからお話したいのは、授業成立に困っている先生に、心を込めて個人指導のできる教育技術(人間性の溶け込んだ技術)の優れた先生チームをつくり、日常的に個別指導してもらう(いろいろな方法を考える)ことが、今一番効果的ではないかと思うのであります。そのチームが授業を成立させるための指導のポイントも、決して難しい論理や高い指導技術ではありません。

授業を何とかさぼろうとする生徒の口癖には、いつも「分からない」「何の役に立つの」「うっ」とい、すなわち、今、学校で学んでいることが、自分の今生きていることにつながるのではありません。学校に来て、「自分で分かった」「友人と何かをした喜び」を味わったこと、先生や友人から学校での楽しさを味わってもらったことのないことでもあります。ですから、反社会的行動や学校裏文化の行動で問題を起すのであります。そして、授業の中で参加することを果たせなかった自己顕示欲を充足させるのであります。(このよう

4. 中学校で甘やかされて進学してきた生徒であるため、いきなり高校式授業(いわゆる一斉授業)になじみにくい。そのため、きめ細やかな指導方法、教材の展開に、それぞれ先生による個性的な工夫を加えることや五〇分の授業を何分に分ける等、授業のトーンに変化を持たせる。
5. PCやタブレット、テレビ等々(情報機器や視聴覚教材・放送教材・教育機器)による、できるだけ分かりやすい教材開発、活用を十分とする。
6. 先生の問い(質問、さそい)に答えられない生徒や間違った答えをした生徒にも、誤答を生かす授業によって、自分が授業に参加した役立っていると思わせるよう指導する(全員出席だけの授業でなく、全員が参加している授業)
7. 緊張感を逃しやすいう生徒に、授業に引き込むいろいろな方法(ウィット、先生の生きざま、失敗談等々を含めて)を考え出す。
授業を何とかさぼろうとする生徒の口癖には、いつも「分からない」「何の役に立つの」「うっ」とい、すなわち、今、学校で学んでいることが、自分の今生きていることにつながるのではありません。学校に来て、「自分で分かった」「友人と何かをした喜び」を味わったこと、先生や友人から学校での楽しさを味わってもらったことのないことでもあります。ですから、反社会的行動や学校裏文化の行動で問題を起すのであります。そして、授業の中で参加することを果たせなかった自己顕示欲を充足させるのであります。(このよう

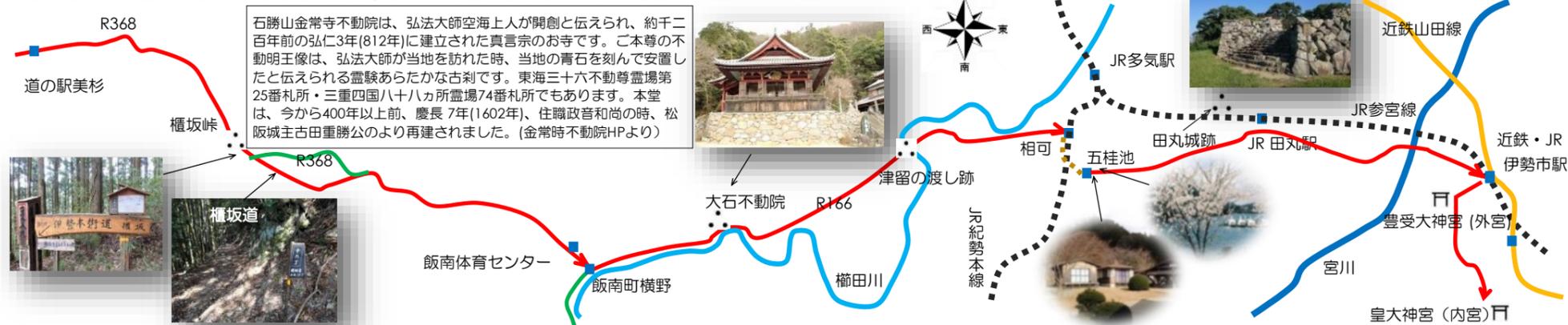
(故 岡崎安伸先生の遺稿より)

伊勢本街道 延ちゃん道中記(その5)

道の駅「美杉」～相可・五桂池～伊勢神宮(内宮) 54km

「伊勢本街道延ちゃん道中記」の5回目、最終回です。前回(ページ)は、伊勢本街道一の難所、「鞍取峠」「開坂峠」を超え、道の駅「美杉」に到着したところまででした。持つべきものは良き友人。延ちゃんも良き友人である「仲辻君」の助けもあり、無事難所を乗り越え、以前、創立50周年記念事業として取り組んだ伊勢徒歩旅行で生徒と歩いた今回掲載の行程を合わせ、自宅から伊勢神宮(内宮)を完歩し、満願を成就させることができました。今回の行程は、編集者も記念事業で一行と歩きました。歩くことは何と

もなと思っていました。確かに、相可に着きバスに乗って宿泊施設のある五桂池までは、何ともないと感じていました。到着し座席から立ち上がろうとしたときに異変に気付きました。膝が曲がったまま、伸ばすことができない。伸ばそうと思うと激痛が走るような状態です。初めての経験。何とか言うようにしてバスを下車。風呂に入ってマッサージと湿布薬を張り、翌日には少し改善していたことを今でも鮮明に覚えています。往生しました。



石勝山金常寺不動院は、弘法大師空海上人が開創と伝えられ、約千二百年前の弘仁3年(812年)に建立された真言宗のお寺です。ご本尊の不動明王像は、弘法大師が当地を訪れた時、当地の青石を刻んで安置したと伝えられる靈験あらたかな古刹です。東海三十六不動尊霊場第25番札所・三重四国八十八ヶ所霊場74番札所でもあります。本堂は、今から400年以上前、慶長7年(1602年)、住職政音和尚の時、松阪城主古田重勝公のより再建されました。(金常寺不動院HPより)

道の駅「美杉」に到着し、まず「鞍取峠」「開坂峠」を乗り越え、以前、創立50周年記念事業として取り組んだ伊勢徒歩旅行で生徒と歩いた今回掲載の行程を合わせ、自宅から伊勢神宮(内宮)を完歩し、満願を成就させることができました。今回の行程は、編集者も記念事業で一行と歩きました。歩くことは何と

もなと思っていました。確かに、相可に着きバスに乗って宿泊施設のある五桂池までは、何ともないと感じていました。到着し座席から立ち上がろうとしたときに異変に気付きました。膝が曲がったまま、伸ばすことができない。伸ばそうと思うと激痛が走るような状態です。初めての経験。何とか言うようにしてバスを下車。風呂に入ってマッサージと湿布薬を張り、翌日には少し改善していたことを今でも鮮明に覚えています。往生しました。

総勢四十名が早朝バスで出発。九時、上多気に到着。国道308号線を東進。榎坂峠を越えたところから旧道(榎坂道)へ。旧道は、一人しか通れない道幅で、急勾配の葛籠折れが続く。下りだから良いが、伊勢方面からは登りになるので、往時は大変な難所であったと想像できる。榎坂峠を下った地点で、三日前に柏原高校を出発した先発隊と合流。それ以降、一緒に行動する。できるだけ当時の本街道を歩く。各地で古老から励ましの声をかけてもらい、元気づく。澄んだ水の仁柿川、美しい里山の景観を楽しみながら上仁柿、下仁柿と下る。昼食は、町の体育施設である「飯南体育センター」を貸していただき、暫くの間、食事と休憩をする。その後、また街道を下り、横野の町のあたりから榎田川沿いをずっと東進していく。この日はクリスマスイブの日で、柔道の生徒がサントクロースのぬいぐるみを着て歩いている。それを見た保育園児が大喜びで、あちこちの保育園で歓声を浴びる。生徒たちもサービスピ精神旺盛であった。やがて、大石不動院で休憩。果物で空腹を満たした後、「津留の渡し跡」を見下ろしながら榎田川を渡る。人力で渡っていた頃、川止めの目安として川の深さを測るために使われていた「はかり石」の一部が復元されているの見える。

今日もできるだけ旧道を歩く。振り返ると、昨日越えてきた榎坂峠はるか西に。あの向こうから歩いて来たんだと思うと一歩一歩の積み重ねの大きさを実感する。一方、はるか前方には朝熊山がかすんで見える。今日はあの麓まで歩くのだと意を決する。歩き始めてほぼ一時間半、いくつかの集落を越え遠くに田丸城跡が望まれるところまで来る。田丸城は、北畠親房が南朝義軍の拠点として築いた城で、後に織田信勝が三層の天守閣を構えた城だ。もう伊勢は近いが、疲れからか皆情性で黙々と歩く。歩いて歩いて歩き続けている。先頭としんがりとはかなりの開きがあるが、付き添いの教職員も歩く速さの早い遅いがあるが、ちょうどいい具合に分散している。部活生は元気で、しんどい生徒を騎馬戦風に担ぎ上げ、氣勢を上げて歩いたりしている。そして、一行は、ついに宮川を渡る。いよいよ伊勢だ。宮川は、大台ヶ原を源とするだけあって水量豊富できれいな大河だ。伊勢の市街地を歩き、外宮近くのファミリーレストランで遅めの昼食休憩。人数が多いので、前後二班に分かれるが、これがちょうどよい休憩となった。腹ごしらえをした後、また頑張って、緩やかに長い上り坂を上りつめる。そして、内宮参道。最後の力を振り絞って歩き、おかげ横丁を左に見て、ついに宇治橋到着。あちこちで歓声が上がって、全行程歩いた先生、生徒が感涙にむせぶ。我々一泊二日組も感無量。内宮参拝(見学)、記念撮影後、おかげ横丁を自由散策。帰路は全員バスで柏原高校へ。車中、みんな爆睡する。車中から風景を見るのが好きな私は、この二日間歩いてきた山々を眺めながらルートを確かめていたが、そのうちに睡魔に襲われる。気が付けば、バスはもう西名阪を走っていた。金治個人は、今回のウォークで大和、伊勢の山中を歩いたが、もう一つ達成感が沸か



なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

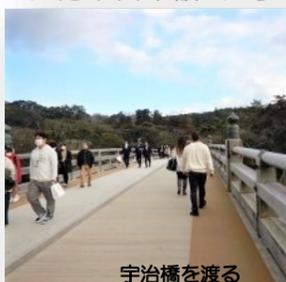
なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。



なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

なかつた。やはり全行程を歩くのでは随分違いがあった。全行程連続してのウォークは無理かもわからないが、せめて分割してでもいつの日か、全行程を自分の足で歩き通したいものだと思いを新たに「創立50周年記念伊勢徒歩旅行」を無事終了した。

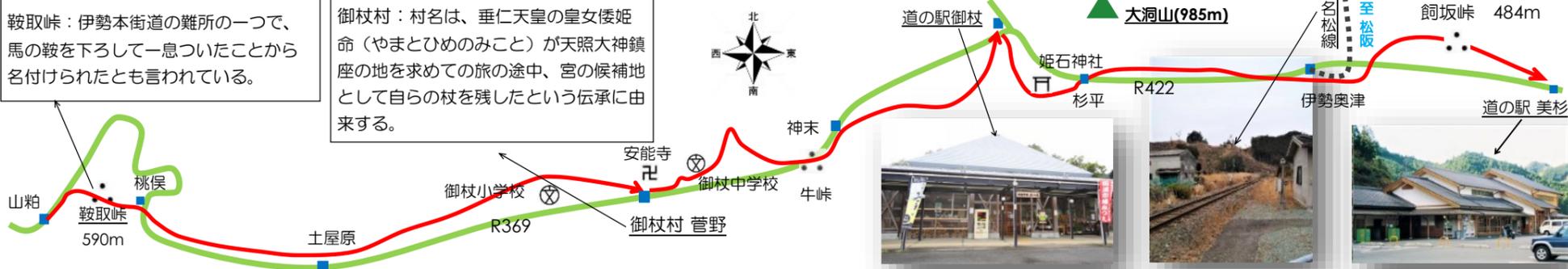
◎まとめ
二〇一九年初冬、「琵琶湖一周ウォーク」残存区間の完歩を目指して、再び歩を進めることにした。年末から一月にかけて順調に計画をこなし、二月・三月は花粉症もあり、自粛。四月から残りの辺境地域を歩く予定をしていたが、あいにくのコロナ禍でストップ。結局一年を棒に振ることになった。また、残存区間の到着地点である上多気の「道の駅美杉」は、鉄道はおろかバスの便もなさそうだったので、山粕から上多気までは三〇kmもあることから一回の歩行ではかなりハードで、山粕から琵琶湖一周ウォーク」を完歩したことを機に、次のステップとして自宅から伊勢神宮までの「伊勢本街道ウォーク」までと敷津から上多気までに分けて歩くこととした。二〇二一年一月五日久しぶりのウォークと計画を立てたが、大阪に二回目の緊急事態宣言が発表され、またもとん挫、結局緊急事態宣言中の二月十三日、連れ合いの車で送迎(運転は往復自分)してもらえることになって前半部分のウォークが実現した。そして三月七日、遂に最終ウォーク。送迎は、この瞬間を見届けたいと自分は歩きたくないだけだ。ただやってきた友人の仲辻くん。花粉症でつらいウォークだったが、無事、美杉道の駅に到着して満願成就となった。ずっと歩き通してほしかったので感涙の涙にむせぶというものはなかったが、それでもやはり感動は大きかった。仲辻くんの車で新大宮に到着後、完歩とお礼もかねて仲辻夫妻を交えて駅前でお酒を飲んだ。持つべきものは友人で二人で酌み交わすビールは喉の渇きも手伝って格別の喉ごしであったのは言うまでもない。

伊勢本街道 延ちゃん道中記(その4)

山粕～道の駅「御杖」～道の駅「美杉」(上多気) 27km

「伊勢本街道延ちゃん道中記」の4回目です。今回は、JR巻向駅から近鉄榛原駅を通過し、国道369号(伊勢本街道)に入り、伊勢本街道一番の難所に差し掛かる山粕までたどり着いたところまでです。特に、榛原から山粕までは、東大阪大学柏原高等学校が隔年で実施している「伊勢徒歩旅行」第1日目の宿泊先である「美杉苑」へ陣中見舞いに行き、昼食場まで行動を共にした当時の回想録でした。

今回の行程は、「お伊勢参りして 可愛いと何処か 飼坂(かいさか) 櫃坂(ひっさか) 倉取坂(くらとりさか) 津留の渡(つるのわたし) か 宮川(みやかわ) か」と謳われた伊勢本街道一の難所にあたります。国道を歩けばそれほどの難所にはならないのですが、街道ウォーカーとしては、それは面白みに欠けるところです。先人が歩いた街道筋をたどる旅。今回はどんな道中になるのやら……。



鞍取峠：伊勢本街道の難所の一つで、馬の鞍を下ろして一息ついたことから名付けられたとも言われている。

御杖村：村名は、垂仁天皇の皇女倭姫命(やまとひめのみこと)が天照大神鎮座の地を求めての旅の途中、宮の候補地として自らの杖を残したという伝承に由来する。

山粕から鞍取峠までは、馬の鞍を下ろして一息ついたことから名付けられたとも言われている。御杖村は、村名は、垂仁天皇の皇女倭姫命(やまとひめのみこと)が天照大神鎮座の地を求めての旅の途中、宮の候補地として自らの杖を残したという伝承に由来する。御杖村は、大学時代の友人が、かつて御杖中学校で宿直のアルバイトをしていた時にお邪魔した学校で泊り、翌朝、曽爾高原まで散策した思い出の地だが、中学校も新築され、かつての校舎は体験交流館として利用されている。ここは、御杖村の中心地、ここに宿場町としての風情が残っている。菅野川と別れ、牛峠に向かう。この道は舗装されていて歩きやすい。勾配もそうきつくない。とはいえ、しんどいことには違いない。しかし、意外に早く牛峠に着く。時刻は十三時。

「コロナ禍で「伊勢本街道ウォーク」も一年延期。まだ緊急事態宣言中だが、車で送迎してもらえるのでようやく再開することが出来た。後残っているのは、曽爾村山粕から美杉村上多気までの三〇km弱だが、未知の街道なので二回に分けて歩くことにする。スタートの山粕地区のコンビニは、十年前に故谷山先生とも立ち食い飯食を摂った思い出の所だが、今は廃業し建物だけが残っていた。十年ひと昔を実感する。山粕地区の通称「メダカ街道」を東進、山粕東口から標高590m難所の鞍取峠を登る。杉木立の中の寂しい道だが、あちこちに道標があったりおかげ参りの札がかかっていたりする。つづら折れを約二〇分で登り切り小休止結構しんどかった。下りも急峻だが一五分で下りて桃俣集落に入る。予習をしていたのに、先人のレポートと同じく県道と国道を間違える。すぐに気づいて引き返し、青蓮寺川の清らかな流れに沿って御杖村の土屋原に向かう。土屋原は街道の風情が残り、営業中の宿屋もある。家々にはかわいい行灯も残っている。夕刻ともなると灯がともされ、もっと風情が出ることだろう。さて、休憩場所は村の中心地の御杖村役場と考えていたが、そこへの道はずっと登り勾配で、自分の歩行ペース一時間に五三kmが保てない。長谷から西峠までの登り坂を彷彿させる。予想以上に時間がかかり、役場には立ち寄りずどこかの道端か川の土手で休憩することにする。桜峠を越え、やっこのこと登り坂が終わる。今度は菅野川に沿って街道は緩やかに下っていく。歩行ペースも上がっていく。御杖村は、大学時代の友人が、かつて御杖中学校で宿直のアルバイトをしていた時にお邪魔した学校で泊り、翌朝、曽爾高原まで散策した思い出の地だが、中学校も新築され、かつての校舎は体験交流館として利用されている。ここは、御杖村の中心地、ここに宿場町としての風情が残っている。菅野川と別れ、牛峠に向かう。この道は舗装されていて歩きやすい。勾配もそうきつくない。とはいえ、しんどいことには違いない。しかし、意外に早く牛峠に着く。時刻は十三時。

大洞山を望む

牛峠への道

ここで国道と交わり道は開放的になった。峠脇の休憩所で喉を潤し暫し休憩。後、三〇分程で本日の終点「道の駅御杖」に着くはずだ。神末の集落までは、ずっと下り坂。堂々とした威容の大洞山(985m)が眼前に迫る。大阪にあれば、生駒山のように行楽地になっていただろうと思いつつ山容を見上げる。ペースを上げて神末の集落に着き、おかげ灯籠と道しるべを写真に撮り佐田峠に差し掛かる。これを一気に越えて無事「道の駅御杖」にゴールイン。

菅野川の別れ、牛峠に向かう。この道は舗装されていて歩きやすい。勾配もそうきつくない。とはいえ、しんどいことには違いない。しかし、意外に早く牛峠に着く。時刻は十三時。

菅野川の別れ、牛峠に向かう。この道は舗装されていて歩きやすい。勾配もそうきつくない。とはいえ、しんどいことには違いない。しかし、意外に早く牛峠に着く。時刻は十三時。

神末の常夜灯

「道の駅御杖」に着くはずだ。神末の集落までは、ずっと下り坂。堂々とした威容の大洞山(985m)が眼前に迫る。大阪にあれば、生駒山のように行楽地になっていただろうと思いつつ山容を見上げる。ペースを上げて神末の集落に着き、おかげ灯籠と道しるべを写真に撮り佐田峠に差し掛かる。これを一気に越えて無事「道の駅御杖」にゴールイン。

伊勢街道ウォークの解説書によると、ここから杉平への道は、湿度の多いすべりやすい急坂とのこと。全くその通りで、ここが道だかはずりりしない苔むした岩や大きな石の間を気を付けながら慎重に下っていく。おかげで結構時間がかかったが、ここでも「伊勢おかげ参り」の赤い札が、道案内となり、心細さを救ってくれた。やがて、三重県の県境を超え、伊勢の国に入る。昔の宿場の名は「石名原宿」というらしい。ところどころの家が、暖簾や行灯に屋号を掲げている。道はずっと平坦でやや下り坂、ペースも上がる。やがて、街道は、雲出川に沿って進んでいく。「伊勢本街道」の道標や常夜灯がそこかしこに立っていて、分かれ道でも迷うことがない。出発から一時間半ほど歩いて奥津に到着。ここはJR松本線の終着駅だ。もう少し賑やかかなと思ったが、やはり寂れていて人に出会うこともない。ただ「暖簾の里」を町おこししているだけあって、街道沿いの家々に「江戸屋」「尾張屋」「かぶとや」と、古い屋号を染め抜いた暖簾がかかっている。

道の駅御杖↓道の駅美杉 十一km (2021.2.13)

電車で大宮まで出かけ、仲辻君に迎えに来てもらう。約二時間かけて御杖村の駅へ。そこからいつものように一人ウォークのスタート。時刻は九時五五分。里山のふもとを歩きながらだんだんと里山へ入っていく。しばらく行くと丸山公園、そこから「姫石明神」に着く。女性病にご利益のある神様らしく、山中の薄暗がりの中で見るご神体の岩に細長い割れ目がある。写真に撮ってすぐに出発。

暖簾の里「奥津宿」

首切り地蔵

一人 ウォークで飼坂峠を越えるのは気が進まないのと、しんどいので新道(国道)まで上がった時点でギブアップ。トンネルをスルーすることになったが、約一キロを一〇分で通過。そこから下って約一〇分、今日の到着地である上多気の見えてきた。相棒の仲辻君に、間もなく到着することを連絡してピッチを上げる。やがて道の駅美杉も見え、迎いの相棒の姿も見えることが出来、ついに「道の駅美杉」に無事到着。時刻は二時四十分。今日は約一km、三時間の短いウォークだったが、これにて自宅から伊勢神宮までの「伊勢本街道」ウォーク満願成就の日となった。バンザイ！あとは車で送迎してもらい、途中奥津の駅に立ち寄り、記念の土産品をゲットして一路奈良へ。

「注」これ以降の旅(道の駅美杉から伊勢神宮(内宮)までの旅)は、創立五十周年記念行事として取り組まれた「伊勢徒歩旅行」に、後発で「道の駅美杉」から先発隊に合流する「泊二日組」の引率で歩いた時の回想録となります。

節分です！ 豆まきです！

「オニはそと フクはうち」

東大阪大学附属幼稚園

二月三日(木)、節分の日に東大阪大学附属幼稚園に二人のオニ(なまはげ)がやってきました。「悪い子はいねえーか」「親の言うことを聞かねえー子はいねえーか」と大きな声で太鼓を打ち鳴らし、かな棒を振り回しながら乱入してきました。

朝、登園時、『年長組のオニはなまはげがくるねんて！』と朝の送迎バスの中で教えてくれた年長組。

『幼稚園やすみたい』と言っていたお友達もいたようで、なんだか年長組のお友だちが一番ドキドキしながら登園してきたようです。しかし、怖いけど、プライド



あか・あおオニ(なまはげ)が大暴れ、子どもたちはパニック



こわくて泣きだすお友だちも、オニさんは優しく声掛けをしていました。

があり『怖い！』と言えないまま...。豆まきが始まりました！！

みんな強くなってきたね。年長組が作った迫力のあるオニのお面、お家を持って帰って大活躍したのかな？



園児がつくったオニのお面



こわいけど、一瞬だけマスクをとって、オニさんと記念撮影をしました。

な棒を振り回しながら、大声を張り上げ乱入してきたオニさんに、果敢に立ち向かうお友だちや逃げまどうお友達、怖さのあまり泣き出すお友だちもいて、教室はパニックに。しかし、そのオニさんとも仲直りし、怖いけど少しの間、マスクをはずして、二人のオニさんと記念撮影をしました。

豆まきの後は、昨年度から誤嚥防止のため、みんなで豆の代わりにミルクボーロを食べました。『わがままオニ、出ていけ！！』『弱虫オニ、出ていけ！！』と一粒一粒、願いを込めて口に入れました。

幼稚園のオニを退治するのも、年長組は今年で最後！！

年中組みんなで幼稚園バスに乗り、鶴見緑地公園へ遠足に行きました

散歩をしているんな物を発見したり、

幼稚園から持って行った縄跳びやボールを

使って広場で遊びましたよ！！

しっかり身体を動かしてボカボカに

お弁当は幼稚園に帰ってから食べました

楽しそうな遠足の様子をご覧くださいね。鶴見緑地公園に向かっ出て行進！！

幼稚園バスになかなか乗る機会のない徒歩通園の子どもたちは少しだけ緊張の面持ち。

あつという間に鶴見緑地公園に到着です！！

歩いていたら...

可愛い『花すきん

鶴見緑地公園へ遠足に行きました

(年少組(2/16), 年中組(2/18))



ちゃん」を発見・

お散歩を楽しんだ後は広場で体をしっかりと動かして遊びました。まずは先生の話を聞いてから、遊びますよ！！

みんなでボール蹴りを楽しんだり、縄跳びを楽しんだり、お友だちとかけっこをしました。園長先生と一緒に遊んでくれました。もっといっぱい遊びた



帰りの道、花すきんちゃんを探そうとみんなキョロキョロしながら歩いていると、帰りの道にもお花を見つけてホッコリとしました。

かったのに、あつという間に幼稚園に帰る時間になってしまいました。

★編集後記(日々雑感)

私が在職していた頃、ありのままの教育活動を見てもらおうと、第一回目の教育フォーラムを開催しました。一部(午前)は授業参観、二部(午後)はシンポジウムの二部構成で実施しました。参加者は幼稚園から大学の教職員や生徒・学生、保護者、企業やNPO法人、塾関係者、一般の方等、多様な領域からの参加がありました。終了後、参加者から寄せられた感想は、A4版十二ページに及びものでした。

その中に、ある受験生保護者から次のような感想が寄せられていました。

「授業を見学させていただきました。ありがとうございます。そのクラスも生き活きた授業風景で、特に二年生の授業は、一緒にいた息子が大変興味深く見入っていました。先生の問いに対して、生徒の皆さんが、思い思いに発表しているのを見て、『間違った答えを言ってもいいの？』と私に聞いてきたのが印象的でした。卒業生の発表も大変参考になりました。本日はありがとうございます。(受験生保護者)」

日々、学校で行われている授業で、先生の問いかけに、「間違った答えを言ってもいいの？」とか「正解を言わなければ」とか「間違ったら笑われるのでは」等と思わせてしまっている現実があることを分かった一言です。しかし、東大阪大学柏原高校では、自分の思ったことを、誰に気兼ねすることなく発表できる環境が育っていることを実感した感想でもありました。東大阪大学柏原高等学校では、在籍する生徒たち一人ひとりの力をより一層伸ばせる環境づくり(授業実践・学級経営等)に努めています。

さて、創刊号を発刊して以来、三年が経過し、十八号を発刊することができました。今号をもって、編集者を退任することになりました。長らくのご愛読、誠にありがとうございました。今後、後任者に「村上学園NEWS」が発刊されるものと思っております。引き続き、ご愛読いただきますようお願いいたします。

(編集者 寺川誠)



https://murakami-ken.jp/ https://murakamigakuen.jp/